

米国西海岸地域で愛知の観光を PR  
- ジャパンショーケースに参加して -

平成 21 年 3 月 10 日  
愛知県サンフランシスコ産業情報センター  
駐在員 杉本安信

世界的な経済状況の悪化、円高傾向が続く中、日本の観光振興を取り巻く環境は厳しさを増しつつあります。

そうした中、このたび日本政府観光局（JNTO）ロサンゼルス事務所の主催により日本観光を PR するイベント「ジャパンショーケース」が米国西海岸主要都市で開催され、愛知県サンフランシスコ産業情報センターにおいても、サンフランシスコ、ポートランド、ロサンゼルの 3 都市でこの行事に参加しましたので、ご紹介します。

< ジャパンショーケースとは >

ジャパンショーケースは、海外からの日本への旅行者の増加を目指すわが国の「ビジット・ジャパン・キャンペーン（VJC）」の一環として、日本政府観光局ロサンゼルスセンターが日本観光の紹介を目的に開催するイベントで、例年、米国西部の主要都市において数回開催されています。

このジャパンショーケースでは、日本各地の自治体や日本の主要ホテル、米国西海岸と日本を結ぶ航空路線を持つ航空会社、さらには、日本観光（訪日旅行）のパッケージツアーの造成を行う米国の会社（ツアーオペレーター）などが、展示やプレゼンテーションを通じて地元旅行会社（小売を行うリテラー）に対して地域の紹介、あるいは自社旅行商品の紹介を行うもので、発表者、参加者双方にとって短時間で内容の濃い情報交換ができることが特徴となっています。

愛知県サンフランシスコ産業情報センターでは、今年は米国西海岸の主要都市、サンフランシスコ、ポートランド、ロサンゼルの 3 都市でのジャパンショーケースに参加しました。

愛知県が参加した各会場にはそれぞれ

サンフランシスコ会場 発表 16 団体、参加旅行会社関係者 77 名

ポートランド会場 発表 11 団体、参加旅行会社関係者 58 名

ロサンゼルス会場 発表 18 団体、参加旅行会社関係者 89 名

が集まり、とりわけ、日本の自治体では、愛知県、東京都、京都市（のみ）、神戸市、横浜市が発表者として参加し、それぞれの地域の特徴、見どころを紹介しました。



発表の様子

愛知県の発表では、愛知が東京と京都に間に位置し、新幹線で両都市のルート上にあること、3 英傑の出身地であり、城、自動車産業、伝統工芸、料理で特徴があることなどを取り上げるとともに、景気の悪化、円高傾向を踏まえ、『お手ごろに楽しめる』という切り口で紹介しました。また、ロサンゼルス会場では、名古屋市とロサンゼルスが姉妹都市提携50周年にあたることについても紹介しました。

万博を開催した愛知県ではありますが、ここ米国西海岸ではまだまだ愛知、名古屋の知名度は高くないようで、ほとんどの来場者は愛知発の自動車や工芸品などの代表的な商品のことを知っているものの、それらが愛知、名古屋という地域と結びついていないように感じました。



出展ブースの様子

実際に参加者に愛知県について説明をしてみると、魅力がたくさんあることを理解して熱心に質問される参加者も少なくなく、こうしたジャパンショーケースなどのイベントを通じて、北米旅行会社の方々への継続的な情報提供が大切であることを再認識する機会となりました。

#### < 存在感増すアジア系旅行関係者による米国西海岸での日本観光の PR >

日本への旅行企画の紹介の場であるジャパンショーケースですが、日系の旅行会社、航空会社にとどまらず、米国系ツアーオペレーターやアジア系のツアーオペレーター、航空会社の出展・発表も行われています。

とりわけ、愛知県が参加した3都市では、2008年3月に新たにロサンゼルスと関西空港を結ぶ直行便を開設したエバー航空（本社台北。北米にも拠点を持つ）やロサンゼルスと成田空港を結ぶ直行便を持つシンガポール航空のほか、米国を本拠とする中華系ツアーオペレーターのシグネットツアー社が発表を行っていました。

このジャパンショーケースの主催者であり、日本の観光PRに関して北米西部を担当する日本政府観光局ロサンゼルス事務所の滝澤所長の説明では、「近年、当地から日本経由でアジア諸国への里帰りや、観光旅行に出かけるアジア系米国人の市場が有力となり、訪日旅行市場にも中華系、韓国系などアジア系旅行業界関係者が熱心に参画してきており、日本の観光PRに大きく寄与するようになってきている。この傾向をとらえ、日本政府観光局ロサンゼルス事務所としても中華系、韓国系、ベトナム系などアジア系ツアーオペレーターなどへの働きかけも強化している。また、日本と近隣国と組み合わせたツアーの拡販も重要となってきている。」とのことで、愛知県としてもアジア系アメリカ人の多い北米西海岸地域ならではのPRの実施が必要であると感じさせられました。

#### < 米国の訪日旅行市場の動向 >

そうした中で、米国における訪日旅行市場の動向について見てみると、まず、米国からの2007年の訪日旅行者（日本政府観光局調べ）は約82万人の規模で、全世界からの日本への旅行者に占める割合では9.8%と第4位となっています。

[世界各国 日本] (旅行者数と構成比)

1位：韓国(260万人・31.2%)	6位：豪州(22万人・2.7%)
2位：台湾(139万人・16.6%)	7位：イギリス(22万人・2.7%)
3位：中国(94万人・11.3%)	8位：タイ(17万人・2.0%)
4位：米国(82万人・9.8%)	9位：カナダ(17万人・2.0%)
5位：香港(43万人・5.2%)	10位：シンガポール(15万人・1.8%)
総計 835万人	

また、米国人海外旅行者の2007年の訪問国別順位(米国商務省調べ)については、日本は第7位で171万8千人、全体の約3%となっています。

[米国 世界各国] (旅行者数と構成比)

1位：メキシコ(1945万人・30%)	6位：ドイツ(193万人・3%)
2位：カナダ(1337万人・21%)	7位：日本(172万人・3%)
3位：イギリス(312万人・5%)	8位：ジャマイカ(153万人・2%)
4位：イタリア(237万人・4%)	9位：中国(香港除く)(137万人・2%)
5位：フランス(221万人・3%)	10位：スペイン(109万人・2%)
総計 6405万人	

一方、訪日米国人の訪問都道府県別内訳について日本政府観光局「2006 - 2007 年度訪日外客実態調査」でみると、愛知県は全国で第6位となっています。

1位：東京都(65.5%)	6位：愛知県(8.7%)
2位：京都府(22.2%)	7位：広島県(6.8%)
3位：神奈川県(20.2%)	8位：奈良県(6.6%)
4位：大阪府(16.4%)	9位：沖縄県(6.2%)
5位：千葉県(8.7%)	10位：兵庫県(6.0%)

日本政府観光局発表の「2008年の訪日外客数の推計値」(2009年1月27日発表)によると、米国からの2008年の訪日旅行者は、「サブプライムローン問題の影響で上半期は商用客が減少、下半期は金融危機による消費の手控え、円高の進行などで観光客も減少、年間では前年比5.8%の76万8千人」とされるなど、景気後退下にあって、2009年も米国からの旅行者誘致は厳しい状況が続くものと見込まれます。この点、旅行市場は他の産業同様、市場動向に大きな変動が現れる可能性もあると考えられますので、この変化の激しい状況を注意深く分析し、新たな見通し、戦略のもと施策を進めていく必要が生じています。

2006年12月に観光立国推進基本法が成立し、2008年10月1日には観光庁が発足したわが国ですが、深刻な低迷に直面している経済を活気付け、観光立国を実現する施策が期待されます。

愛知県サンフランシスコ産業情報センターにおいては、愛知の観光PRの一環として、

ジャパンショーケースへの参加や北米各地での日本まつりへの参加出展、さらには北米旅行会社向けの観光ニュースレターなどの配信を行っていますが、今後も日本政府観光局や北米各地に所在する日本国総領事館や旅行会社などとも連携しながら、様々な機会を利用し、愛知の観光・魅力を北米で引き続き発信していきたいと思いをします。